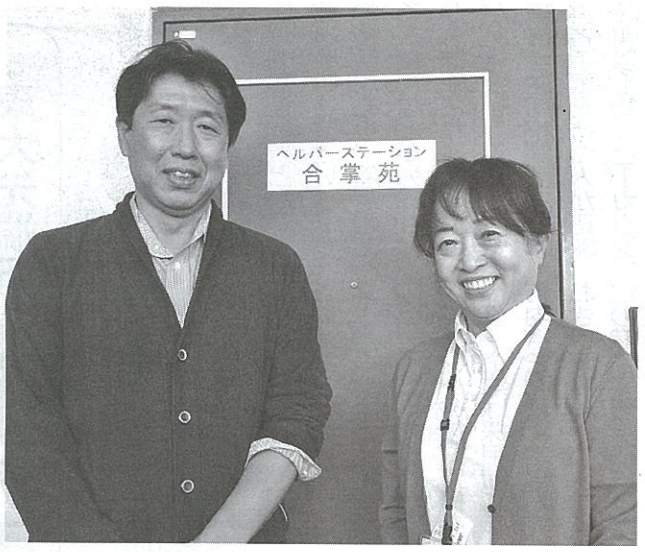
ヘルパーステーション合掌苑

限定正職員制度で働きやすく
選択肢増え定着に効果あり

社会福祉法人合掌苑（森一成理事長）は、介護人材不足の中、高齢職員が働き続けられるようにするために、2017年に定年制を廃止し、短時間・短日勤務が可能な限定正職員制度を導入した。その結果、ワークライフバランスの観点や自身の体力に応じて長く働き続けているヘルパーも多い。長期休暇の取得促進や法人独自のマネジメントの工夫も、生産性向上や業務効率化に一役買っている。

同法人は、東京都町田市などで運営する特養や住宅型有料老人ホームを拠点に、訪問介護やデイサービス、ケアマネ事業所、障害福祉サービス、地域包括支援センターなどの事業を展開している。今年3月時点で550人の職員が在籍。週36～40時間で働く正職員のほかに、週32時間以上の労働時間で、原則異動や土日勤務がない「限定正職員」という働き方がある。高齢者や子育て中の職員が働きやすいように、2017年に法人全体で定年制と継続雇用制度を廃止したのに合わせ創設。全職員の約1割がこの形態で働いている。

「家庭や体力などさまざまな事情で正職員として勤務するのが難しくなった時に、以前なら退職するかパートになるかの二択でした。限定職員という選択肢を増やしたことで、状況に応じて働き続けてくれるシニア以降の職員が増えました」。



小堀伴美さん（右）と管理者の遠藤圭さん

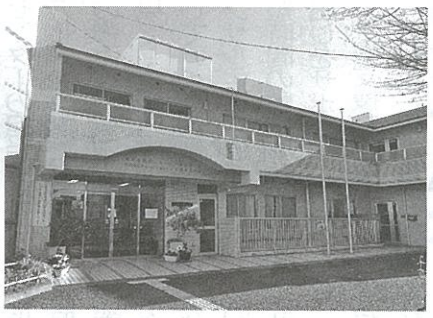
法人営業統括部の神尾昌志本部長は人材確保・定着に効果があったと話す。そうした労働形態で働きたいと応募してくる専門職もいる。

ヘルパーステーション合掌苑(町田市)には現在、登録ヘルパーを含む30～80代の46人が所属しているが、うち40～70代の男女7人が限定正職員だ。

その一人、小堀伴美さんは、勤続21年のベテランヘルパー。介護保険制度がスタートした2000年に合掌苑が開催していた2級ホームヘルパー講座を修了し登録型ヘルパーとして入職。「その頃ヘルパーは大人気で、講習受講は順番待ちでした」と振り返る。今は昔だ。

子育てがひと段落した2006年、上司から声をかけられ、異動がなく、シフトも相談できる週5日、1日8時間勤務のパート職員「タイムヘルパー」に。その後介護福祉士資格を取得した後に、限定正職員制度ができて移行した。

「当時は家庭優先だったので、土日休みの働き方がぴったりでした。正社員として働くのは責任が重いとも考えていたので…」


ヘルパーステーションは1993年に開設した特養「合掌苑 桂寮」に隣接している

法人では、資格取得についても支援を行っている。介護職員初任者研修の受講費実費補助（上限5万円）や、実務者研修受講費実費補助（上限10万円）などで、実務者研修の場合は、受講日の半分を上限に職務免除も認めている。もちろん、年齢に関わらず全職員が対象だ。

長期休暇の取得が生産性の向上にも

働き続けるモチベーションになっているというのが、年2回・1回最大2週間のリフレッシュ休暇（以下リフ休暇）だ。法人では2013年から全職員に取得を推進している。「仲間のヘルパーと手順書などの確認をして、1人の利用者に自分以外にも何人か入れるようにしています。お互い様なので、みんな協力的です」（小堀さん）

リフ休暇を取得するためには、休暇中の自分の仕事を棚卸しして、同僚に引き継げるように事前に整理する必要がある。そのことにより、仕事が「人」ではなく、「組織」に就くようになり、業務効率化や、生産性の向上につながるのだという。

また、ステーションでは、2年ほど前から4カ月に1度ローテーションを組んで、担当する利用者を変更している。最初は、経験で培ったノウハウを他のヘルパーに知られることへの抵抗もあり評判が良くなかったが、何回か回るうちに、ヘルパー同士で助言指導し合うように。いまやヘルパーが戻ってきた夕方のステーションは「やかましいくらいコミュニケーションが活発」（小堀さん）だ。

管理者でサービス提供責任者の遠藤圭さんは「ローテーションはヘルパー不足に対する対応として始めましたが、それまで1対1の関係でなかなか見えなかった部分が見えてきました。同僚ヘルパーに教えることによって、自らのケア技術も向上していると思います」とプラス効果を語る。

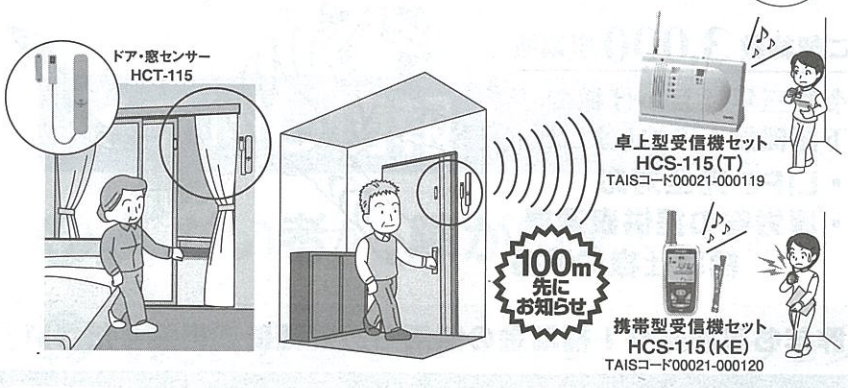
85歳ヘルパーが手本 リタイア時期は決めず

小堀さんは今、この仕事が楽しいという。現在63歳。何歳まで仕事を続けるイメージかを尋ねてみた。

「ステーションで最高齢は85歳の登録型ヘルパーの方で、法人の養護老人ホームで短時間の排泄介助をされています。とても明るくて若々しいんですよ。そういう先輩に〝若いんだから頑張りなさい〟と声をかけていただくと励みになります。リタイアの年齢は決めていません」。そして、入職当時から関わっている利用者もいる。「訪問してお話をするとこちらが元気をもらえます。こうしてケアできるのもここまで仕事を続けてきたからこそ。できれば、最期まで関わりたいと考えています」

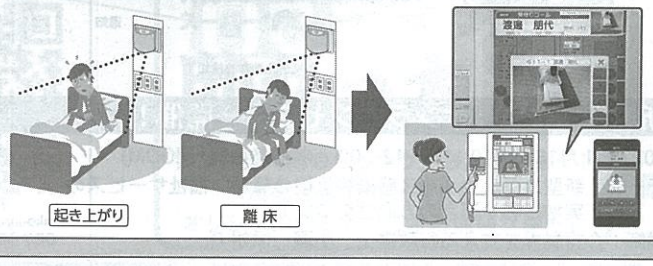
森一成理事長は、日本では特に中高年の採用についてミスマッチが起きていると指摘する。「常勤でヘルパーを雇用する際は年功序列の賃金体系が存在するため、事業者が中高年よりも賃金の低い若年層を雇用したがる傾向があります。私どもは年齢が反映されない賃金体系の限定正職員制度を作りました。本当の『同一労働同一賃金』が実現すれば、欧米のように熟練した中高年の採用が活発になるはずですが、日本で実現するのは簡単なことではありません」

訪問介護は、「何歳だから引退」という企業のサラリーマンとは異なる世界。介護人材不足を嘆く前に、経験を積んだヘルパーの強みに目を向けてみてはどうだろうか。

TAKEX　竹中のセンサ
徘徊お知らせ 開見(あけみ)ちゃん
ドアや窓から出られる徘徊をお知らせします。
スタッフや家族の方用の便利な"入切スイッチ"付きです。
介護保険制度対象商品


竹中センサーグループ
竹中エンジニアリング株式会社
ヘルスケア事業部:〒607-8156 京都市山科区東野五条通外環西入83-1
TEL:(075)-593-3172(直通) FAX:(075)-583-5550
ヘルスケアの専用サイト
https://hc.takex-eng.co.jp/

アイホン
ナースコールシステム Vi-nurse(ビーナース)
映像見守りシステム
映像解析で「起き上がり」「離床」を検知し呼び出す
JIIA インターホン オブ・ザ・イヤー 2018 特別賞

見守りカメラ
新機能
・超低照度ゼロルクス対応カメラ　・プレ録画機能　・ベッド位置の自動検出機能
転倒・転落や徘徊時にスタッフさんへお知らせ
見守りカメラで捉えた患者さんの映像を解析して「起き上がり」「離床」を検知。ナースコール親機、スマートフォンまたはハンディナース(PHS)を呼び出します。


アイホン株式会社　アイホン　検索